

Ma n u i a No.5

青年海外協力隊サモアのOB会機関誌

平成10年8月1日発行



第3回青年海外協力隊サモアOB会総会
(平成10年5月24日 於:中野クラブ)

第5号会報発行に当たって

青年海外協力隊サモアOB会
会長 山崎 義行

初夏の匂いも一段と強くなつたこの頃ですが、皆さん如何お過ごしでしょうか。私は今ミヤンマーの首都ヤンゴンのホテルでこの挨拶を書いています。ここミヤンマーは今が一番暑い季節で、「サモア」の暑い太陽を思い出します。ちょうど10年前の4月胸をおどらせて広尾の訓練所へ入所、8月に南の島「西サモア」へと成田を飛び立つたのでした。そしてあつと言う間の2年間が過ぎて帰国前、私の交代隊員として着任したのが「糸川君」でした。現地で引き継がわりに話をしたのがついこの前のことのようです。彼とは同じ会社(NTT)、そして彼のお父さんが私の家の出身地「徳之島」の出身だったということもあって当時サモ

アへ来ていた私の家内とともにいろんな話をした事が思い出されます。

2年前、私は転勤で九州から東京の現在の勤務地へ。そこで彼と6年ぶりの再会。サモアで会った時のナイーブさが少し消えて、たくましくなったように思えました。OB会へも随分と協力をしていただきました。上の子供さんの手を引いて、いいお父さんぶりを發揮していました。最初の入院、そして退院と順調に行ってるよう見えました。昨年の初夏だったか、私がカンボディアへの2ヶ月ほどの出張から帰った時に職場復帰していた彼と話しました。「しばらくは半日だけの勤務だけど、すぐに通常勤務に戻れますよ。」と、明るく話していました。それが再度の入院、治療。最後は抗がん剤との闘いだったのか?と思うぐらいの辛い治療だったようでした。一度見舞いに行った時、「抗がん剤が結構効いてるようですよ。病気の進み具合が止まってるってドクターが言ってました。」と他人事みたいに話すのです。なんと言葉の返しようもなく困りました。

その後、「とりあえず退院しました、通院治療を続けています。」との連絡、一安心していた矢先でした。出張先のミャンマーでの仕事が予定より2日早く終わり帰国したその日の会社の友人からの電話で糸川君の計画報を知りました。こんなに早く、悲しい知らせを聞こうとは思いもしませんでした。お通夜には遠く関西からも駆けつけた方々を始め沢山の隊員OB・OGの顔がありました。「病魔」との1年以上に渡る闘いはいかほどだったことでしょうか。彼の事だから前向きに眞面目にそしてひたむきに聞くを挑んだに違いありません。残して行く子供さんたちや奥様の事を思うと胸も張り裂けんばかりだった事でしょう。先のサモアでのパーティーのビデオに彼がいます、私の家の「新隊員歓迎」と我々の「お別れ」パーティーでした。その自己紹介で照れ臭そうにカメラに向かう彼の顔と声が心に響いています。

糸川君のご冥福を心からお祈り致します。

合掌

今回の特集は、事務局よりランダムで何人かのOB隊員にサモアでの思いで及び現在の近況につき投稿をお願いしました。また、現役隊員には、サモアでの職場紹介及び、以前その職場で活動をしていたOBに対する現地ローカルスタッフからのコメントを依頼しておりますが、諸般の事情により、1通のみ回答となりました。なお、本特集にご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

昭和47年2次隊
糸川 精一（土木施工）

私は、昭和47年（1972年）12月、第一号の隊員として送り出されましたが、いつのまにか27年も経ってしまい、忘れかけた記憶を辿りながら赴任当時の想い出を記すことに致します。

要請では医師2名、建築2名、土木2名の計6名であったが、医師の応募はなく、建築と土木の各一名が残り、建築の方が辞退したため結局私一人になった。訓練を終え、当時まだ一ドル360円であった東銀のTCと、First Aid Kitの黒いカバンを持ち、始めて乗る飛行機を5回乗り継ぎ何とかアピアに着いた。田口調整員（当時）が約一週間前に現地入りし、受け入れ準備に奔走されたお陰で2、

3日中にモトトウアの宿舎に移り、VSA, Peace Corps, 豪州、英国等からのボランティアの仲間入りをした。交代での食事当番も初めてのことと、料理の本と首っ引きとなつた。この頃はクリスマスの時期でよくパーティーに連れていかれたが、日本人は珍しかったのか、思いもつかない質問をされ、自身の不勉強と語学力のなさを思い知らされた。年が明けてから宿舎の斜め向かいの官舎が協力隊事務局兼宿舎となり、田口調整員が移って来た。開設等の手伝いをしようとしたが、それより「早くサモアの社会に溶け込むように」という訓示を受けた。一方、配属先のPWDには欧洲、豪州、ニュージーランド等からの専門家、VSA, Peace Corps 等ボランティア、一握りのサモア人の技術者等がおり、中に入って行くのに何となく気後れがした。しかし、同業のVSAの一人が新参者の面倒をよく見てくれ、私は構造設計を担当することとなつた。初仕事は、アピアの外れにあるPWD電気局（現在の電力公社：NPC）のタヌガマノ発電所のディーゼル発電機の増設工事であった。基礎コンクリートの鉄筋は非常に複雑で、タ食後次の日の配筋の段取りをする日か毎日か続いた。コンクリートミキサーがよく故障するため、アピア周辺にあるPWDの5台（内2台は予備）のミキサーを集め、3日2晩連続でコンクリートを打設し何とか発電機の到着に間に合わせることが出来た。この工事は約6ヶ月で終わり、次は橋梁の仕事である。鉄筋コンクリート橋の設計・施工では、長さ10m以上の橋桁を製作し架設せねばならず、完成後暫くの間事故があつた場合の責任をどうとればいいのか迷った。それまでPWDで作っていたコンクリートは木片やサンゴのかけらが出てくることが度々で現場では強度・品質という意識は殆ど無かった。このためコンクリートの品質管理を徹底するよう努力したが、橋のよう人に命に直接係わりを持つ構造物は特に注意を要した。また、ドイツ時代に架けられた橋梁等の応急補修工事、幾つかのフォード作りに携わった。ウポル島の裏側でのフォード工事では雨期が例年より早く来るということで、周辺の家からランプを借りて夜9時頃までかかってコンクリートを打設したが、ヤシの間から見た星空が印象に残っている。こうして比較的楽にPWDに溶け込む事が出来たのは、語学力をさほど必要としない設計、工事が多く体力で取り組めたからであろう。祭日や週末には、サモア人のチームに加わりサッカーをしたり、近郊の村に泊りがけで行ったり、海水浴、カヌー漕ぎ、パロロ採り、Mt. Silisiliへの登頂（失敗）、テング熱など数々の経験ができた。また、円貨切り下駄、オイルショック、JICA設立によるJOCVの併合などの出来事があり、田口調整員に統き伊藤調整員、吉川調整員と3代の調整員にお世話になった。任期終了後、NPCの依頼で水力発電の調査に従事したが、一年余勤務した後、家の事情により日本に帰ることとなつた。このときは、機上でウポル島の島影を見ながら越し方を思い、熱いものがこみあげてきた。仕事上でも、生活の面でもいやな事はあったが、それ以上に得たものが多くあった。それは、炎天下でも黙々仕事をしてくれた労働者たち、何かと気にかけてくれたPWD、NPCのサモア人の局長、同じオープンの料理を食べた同宿のボランティア、いろいろと便宜を図ってくれた後続の隊員達であり、サモアの人々の人情と自然であった。

*それ以後再訪の機会に巡り会えませんが、定年後はサモアで水資源開発の仕事ができたらなどと甘い考えでおります。帰国当初は、OB・OG が少なかったためサモア・トンガ会を吉川さんの「わらぶきの家」（厚木）で数回開きましたが、主要メンバーが転勤などでいなくなり、いつの間にか消滅しました。新たに西サモアOV会ができることは非常にうれしく思いますし、今後もこの会が長く存続することを期待いたします。会員が協力して幹事を、OV会を盛り立ててゆくことがその秘訣ではないでしょうか。しかし、斯く言う私も現在建設コンサルタント会社でJICA関連の水資源開発の業務に就いており、出張が多いためお手伝い・親睦会への参加もままならず、会員に加えていただきながら肩身の狭い思いであります。

サモア なつかしき思い出

昭和52年2次隊
飯田 敏夫（建築設計）

「西サモアがあるよ」前任国エチオピアでの協力活動が始まって間もなく全隊員の引き上げが決定したこと、駐在員から残りの任期での派遣国を告げられたとき複雑な思いにかられた事を思い出します。隣国との戦争、内乱による危機的状況から脱して一転平和であらう国への派遣は、私に安心感を持たせると同時に前任国に対する申し訳なさも抱かせました。

こういう事情で1年半に渡る私の西サモア公共事業省での活動が始まったわけです。現在ではかなり変わったようですが、勤務先は海に面したマーケットの隣に位置しており公共建築物の設計・施工・監理を行っておりました。当時、2階建てを超える建物はなく、また木造以外の建物もほとんどない状況でしたので当然私の仕事も慣れない木造の建物がメインとなりました。事務所内はまことに気のいい連中ばかりで、赴任したばかりの私を不安にさせたり悩ませる事もなく、スムーズに溶け込む事ができました。ただし、あまりのノンビリさ加減や適当さ加減には最初のころはあきれるやら腹が立つやらしたものでした。それでも時が経つうちにそんなものだらうと納得し、頭を切り替える事しました。

事務所では当然農業というものはありませんからアフターライフいろいろ楽しむ事ができました。思い出せばテニスを教えてもらったり、競技場で夕陽を浴びながらジョギングをしたり、教会へ英会話を習いに行ったり、ホテルのバーでビールを飲んで語り合ったりしたものです。なかでも週末に島の中央部のラノトオ湖へ幾度となく訪れた事は楽しい思い出となっています。その湖は高所にあるせいか時には霧に包まれ、幻想的な雰囲気を醸し出すことがありました。なぜか赤や黒の金魚が群れをなして泳いでおり、そこがお気に入りの私は、一度はテント・ゴムボート持参で友人と二人で泊り込んだ事もありました。

山といえどサバイイ島にあるこの国の最高峰シリシリ山に登りたくて事前調査に出かけたこともあります。まだサモア到着後の間もないころ、交通事情に疎いままバスを探して乗り込み、ムリファヌア港から出る船を待って島にたどりつき、さらにサレロロガからバスを乗り継ぎ山に近い村であると思われたガタイバイ村にたどり着いてある家で一晩泊めてもらつた事がありました。それ以来その村には二度訪れましたが、正式な入村の儀式を経ていよいよ私をいつでも暖かく迎えてくれました。また、現地研修でお世話になったマノノ島にはこれまで幾度となく訪れ、本当の家族のつきあいをさせてもらうことができました。そこでせっかく習ったサモア語なのに、小さい国であるための教育の浸透で年寄りから子供までほんどの人が英語を話す事ができ、私のサモア語の質問に対しても英語で返事が返ってきたため少しも上達せず、それが心残りとなっています。

ここで一年半に及ぶ生活で、バイクに乗っていてトラックに正面衝突され入院したこと、海で泳いでいて潮流に流されてしまい、静かに見える海の恐ろしさを体験した事、また、入られた時はかなり怒りを感じましたが、考えてみればどことなく憎めないコソ泥とかたくさん思い出を私に与えてくれました。もうだいぶ長い間手紙のやりとりをしていませんが、知り合った皆が全員元気に暮らしている事を折りにふれ願っています。

昭和60年度1次隊
島村 直登（理科教師）

私は、ウポル島のアベレ・カレッジに配属されました。もっぱら数学を教えていましたが、私が退任するころ、アベレ・カレッジを廃校にして、跡地に日本の援助で大学を作ろうというサモア政府の計画が持ち上がりました（現在アベレ・カレッジはどうなっているのでしょうかね）。しかし、この

計画でひとつトラブルが生じました。実は、校長が2人になってしまったのです。前校長はこの計画が出された後、休暇中にオーストラリアに出掛けました。「どうも次の仕事を探しに行つたらいい」ということで、その間に新しい校長が決まってしまいました。ところが、前校長はサモアに帰って来たのです。さあ、大変、校長が2人になってしましました。それぞれの校長は、朝礼を開いて「我こそは、校長なり」とどうも生徒に言ってたようですが、生徒に「どっちの校長の言うことを聞いたらいいの」と聞かれても「さあ」と私たち教師は答えるしか…。結局、前校長は役所内にポジションをもらって一件落着いたしましたが、忘れられない経験でした。

さて、またハベ・カレッジは男子校で有名でした。体罰も当たり前の

を鞭につかっていましたが、だいたい週に2本ほど必要でした。また、声ももちろん大きく、私が怒ると学校中に声が響き渡り、校長が何事かと飛んできることもありました。ところで、ある朝全校生徒が学校に来ていないことという事件がありました。なにも私が体罰をし過ぎたためではありません。実は、ほかの学校の生徒と町で大喧嘩をしていたのです。前々から仲の悪かったある学校との前日に試合(たぶんラグビー)があって直後に大喧嘩をしていたのです。が、それでも收まらず翌朝登校中に町で大喧嘩になり、結局生徒は、学校に来なかったというわけです。私は、現場にいなかったので詳しくは知らないのですが、町で聞いていた協力隊員の話では、マーケット通りの大喧嘩だったそうです。見られなかつたので詳細をお伝えできないのが残念です。反対に学校はなんとも平和で落ち着いた一日でした。

そんな経験をした私ですが、日本に帰ってからは土地開発に絡もあくどい仕事を長年して私腹をこやしていました。けれども、一昨年改心してそのそのような仕事をやめ、再び外国にでも出ようかと準備している最中です。また、その改心が良かったのか、サモアにいたころ宣言したとおり10才も若い嫁さんをもらうことができ、いまは幸せなパートナー生活をおくっています。ハッハッハッ。

私の協力隊マニ耗計画の崩壊

平成1年1次歯科医師
杉村 知子(旧姓 足立)

西サモアから帰国してひややか6年がすきた。私が協力隊に行っていたことは、一部の人は、知っているものの、極力人に知られないように息をひそめている。高知県の協力隊OB会活動にしても名前は隠せているが、子供が小さいのとたくさんいるのとを理由に、もっぱらだんな（61-1・ネパール）が参加している。おかげさまでついこの前まで、同じ屋根の下の隣の職場に協力隊員OBがいるのをしらなかったぐらいだ。

協力隊に行っていたという、だいたいの人が「すごいね」とか「英語を話せなんだ」という安直な反応を示す。挙げ句の果てに、〇〇の語で話をしても欲しいなどと言われたら困ってしまう。なぜなら、(同期の方は知っていると思うが)私は英語はダメで日常生活はもっぱらサモア語とジェスチャーワーでことを済ませ、Vai l i m a飲んでスカッシュやらテニスばかりして過ごしていたのだ(それから麻雀もしてたっけ…).とにかく活動はうまくいってなかつたのだ!!! サモアのことはみんなに話したくなることはあるのだが、それが活動のことには及ぶと困るので、協力隊は私のプライベートな思い出として心の奥にしまっておくつもりだったのである。ところが、この前とんでもないことになってしまった。というのも、仕事上、高知大学農学部の附属農場に行くことがあり、先生とも顔馴染みだったのだが、ある日、S助教授が「杉村さん、実は、お願ひがあるんです。」というのだ。内容は次のとおり。今度、3年生の集中講義があるのだが、最近は女子学生も増えてきたので、仕事を持つ女性として、また家庭と仕事をかかえる女性として何か学生に話をしてもうえたい。仕事のことも構わないし、日頃かんがえていることでもいい。ただ、男子学生もいるので育児のことはちょ

つとこまるが…というのだ。そ、そ、そんなへ！何も考えずに仕事しててるのに…子供のことならなんでもはなせるけど…しかも1時間も！いいたい何はなすんだ？とうとう断りきれなくなつた。「協力隊もことでもいいですか？」「えっ、協力隊に行ってたんですねか！それそれ、それにしましょう。そうか、協力隊かそれはいい、いい人が見つかった。じゃあ、来年もお願ひしようか。」「……」これどりせんばかりに喜ぶ助教授を横目に私の気持ちは見る見る沈んでいった。こうして、私の協力隊マル秘計画はもろくも崩れさつたのだ。そして講義はというと…45人の学生を前にしどどもどろで始まり、話は支離滅裂の典型。スライドを使ってサモアの話の頃にはなんとからしくなつたが、とにかく、針のむしろ状態であった。もっと眞面目に活動しておけば良かったと、今更ながら後悔したのでした。しかし、久しぶりに見るサモアのスライド。あ～もう一回行ってみたいな、今頃ビーナつてのかね、みんな元気かな…と郷愁に浸つたことでした。

おらがきもあ

平成6年度2次隊
澤井慶太（音楽）

はかなきは七百三十日と国内積立金
サモアを離れ、帰国してからすでに1年以上がたちました。今でも街角で、駅前で、旅行用のパンフレットやポスターに南太平洋のあの美しい島と海の風景を見るにつけ身震いをおぼえるのです。俺は確かにこのような景色の中で生活をしていたのだ、現実にこの白い砂浜に足を踏みおろし、穏やかに波立つ潮の味を舐めたのだ。南国の風は、俺の頬をやさしく撫でていたのだ。ヤシの実は、俺のカラカラに乾いた喉を潤し、日曜の *tō'ona'i* (ランチ) の香りは俺の鼻をくすぐり、俺の食欲をついていたのだ。思い出は鮮明に臉(まぶた)の裏に甦ります。ファミリーの裏の *samitiōata* (澄んだ浅瀬の海)、マノノ島まで泳いで渡った時の歓喜の緑の *tō'eiau* (北東の貿易風) ムリファヌア港のクリスマスの雜踏、ナイトクラブの婀娜(あだ)っぽい嬌声、酔っ払いの喧嘩。すべてが、甦るのです。私の配属先是、西サモア音楽学校、アピア隊員でした。栄光と蹉跎(つづき)の葛藤。一私の隊員生活を一言であらわすと、こうなります。若きゆえの無力。隊員としての、誇りをどう押しつぶしていくか。常にこの戦いだったと思います。私と上司との間に初めてきしむ音が流れたのは隊員支援経費を要請する時でした。私が自由に使えるはずだったその経費を、彼らは、学校側の一方的な都合で、別の予算として使おうとしたのです。彼らは、私の情熱を蹂躪(じゅうりん)してきました。若い私の意見は全く聞き入られませんでした。口論したこともありました。逃避の方法も色々と考えました。マシナ原稿(編集部注: サモ協力隊員機関誌)をひたすら書くことによって鬱憤を晴らそうともしました。ゴルフや将棋等、新しい趣味に没頭しようとしました。しかし学校ですっと面倒を見てきた生徒がコンサートで好評を博したり、練習では失敗ばかりしていた子供が本番では成功して、見事な演奏に拍手喝采を浴びて大喜びしている姿を見るたびに、教えることの満足感を味わうことができました(私は、教員未経験だったので)。最後に *Aua lega 10 i fia fia musika!* (音楽を楽しむことを忘れるな) と言う言葉を残して去りました。彼等の笑顔が好きでした。素直に泣くことの出来る性格も、口ゲンカしても、次の日まで尾を引かない、さっぱりとした気質も。只今、私はテレマーケティングの仕事をしております。この業界は、新規参入企業であるせいめい不景気知らずで、常に人が足りない状態にあります。ちなみに協力隊の国内積立金は、すでに食い尽くしてしまった。……サモアか_ 考えてみれば、我々は非常に狭っこい地域に異様にかたまって住んでいたものですね。アピアに居た時は、他の隊員のところまで自転車でサッといくことができたのに、帰国してからはみんな遠い所に住んでいてなかなか会う機会がない不思議なものですね。サモアは、遠きにありて想うもの、なのかな。ヴァイヴァセ・タイ26番のネコちゃん元気にしてるかな。一無理か。サモアでの貴重な体験はいつでも強烈なしびれと恍惚感を呼び起こせます。そして *olaga Samoa* (サモアの生活) はこれからも僕(はかな)く、しかしずつりと、私の

血の中に流れ続けるのだとおもいます。

H9年1次隊システムエンジニア
野口 武志（郵政省 telecom 勤務）

平成6年2次隊の大沢もとい隊員の後任として、昨夏から勤務しています。私は、ここで4代目ですが、大澤隊員以前のJOCV隊員を知っている人はほとんどないようです。ここも、協力隊派遣の例に漏れず、すっかり隊員への依存体質ができあがっており、私の代で終わらせることが最も大切な仕事の一つであると認識しております。職場の人は、人柄も良く日本人慣れしていることもあるて自身とても仕事がやり易いです。

フレッドさんの名譽総領事就任を祝う会出席報告

昭和61年2次隊

徳山 薫（理数科教師）

1997年4月22日（火）ロイヤルパークホテルにて行われた、ツア・フレッド・ウェッツェル氏の在西サモア日本国名譽総領事就任祝賀会に西サモアO.V会からは、山崎（S61/2 宅内電話工）、大塚（S63/3 システムエンジニア）及び私の3名が出席しました。会場には西サモア国文部大臣フィアメ・ナオミ氏のほかに、パシフィック・インターナショナル社や南洋貿易など日本－西サモア関係者や企業代表が多数出席し盛大に行われた。フレッド・ウェッツェル氏は大柄で温厚な紳士でアピアコンクリートの社長をしながら、初代名譽総領事に任命された。名譽総領事事務所はアピアコンクリートにおかれ、在留邦人や邦人旅行者が事件に遭い困難な状況におかれたり時に相談に乗ったり、関係諸機関や日本公館等への連絡をしてくれるようだ。また、日本企業がサモアに投資する際には相談にも乗ってくれるそうだ。西サモア国文部大臣フィアメ・ナオミ氏はとても気さくな女性で一般のサモアの方々のように初対面の私にも昔からの友人のような雰囲気で接してくれた。私たちが元西サモアJOCVメンバーだと自己紹介したところ、いきなり「オアーマイオエ」と聞いてきて、どう答えてよいか思い出せずにいたところ、「マヌイアでしょ」と答えを教えてくれた。冷や汗をかき、日常会話を忘れ、サモアが年々遠くなっていくのを感じさせられた一瞬であった。ビュッフェスタイルの食事では、オカやウムのタロなどのサモアンフードを楽しむことができ、サモアンドンスショー・カバの儀式のデモンストレーションが行われ、昔のよき日々の思い出がよみがえってきた。これから、日本と西サモアがさらによい関係になっていくことを願って会場を後にした。

最後にこの報告書を書くに当たって、パシフィック・インターナショナルの大石社長、ならびに外務省広報室に協力を頂いたことに感謝申し上げます。

国際協力フェスティバル参加報告書

運営委員一同

平成9年10月4日、5日の両日、東京の日比谷公園において国際協力フェスティバルが開催されました。

初日は朝からどんよりとした曇り空で午後から本格的に雨が降り出しそまた、翌日は前日と一転して夏が戻ってきたのではないかとかわらず両日とも老若男女を問わず多數の方々がこのフェスティバルを訪れ、国際協力の関心度の深さに感心しました。

さて、当O.V会も今回が3回目の参加となり、今年度は“パンケ”及びサモア民芸品の販売並びにパネル展示を行いました。過去

国際協力フェスティバルとは

日本国政府が政府開発援助(ODA)を開始した10月6日を「国際協力の日」と呼んでおり、このフェスティバルはこの日に因んで、日本国政府、国際機関及び民間団体が行っている国際協力の現状を広く一般に伝える目的で実施されています。

2年間“パンケケ”の試作品作成にはかなりの労力を費やしたという経験から事前に“パンケケ”的レシピを作成するという周到な準備をし、かつ味のほうもバナナを細切れにしたものと材料に加えりといった一工夫した自信作で望みました。当OV会が力を入れた自信作だけあって多くの方々に購入していただきました。購入される方の層は若いギャルが多く、2回も3回も購入するリピータもあり、OV会としても悩に浸っていました。

また、今年は新たに試みのとして、少しでも来場された方々に西サモアを知っていたらしく、また、昨年かなり多くのお客様に“パンケケ”的作成の仕方を尋ねられたという教訓を生かし、西サモアを紹介及び“パンケケ”的レシピを1枚紙にして配布しました。約500部程作成しましたが、最終日の開会を待つまでもなく底を突いてしまいました。

その他では協力隊の予備軍のような方も訪れ、どうしたら協力隊に参加できるのかとか我々に熱心に尋ねてくる方々も多く、少しでも彼らの力になれればとOB・OGも熱心に受け答えしました。当OV会としては、このフェスティバル少しだれど多くの人に西サモアを知っていただける良い機会であるとともに我々の西サモアでの経験が少しでも社会に還元できればと思い、今後もこのフェスティバルに参加していきたいと思います。

最後になりましたが、当日ご協力していただきました方々にこの場をお借りしまして心よりお礼を申し上げます。ちなみに今年も宜しくお願いします。

サモア研修生受け入れ状況

以下の方々が現在サモアより日本に研修にきています。

- 氏名 Filipo Soo Choon
- 所属先 ドンボスコ職業訓練校
- 研修期間 98. 07~99. 03
- 研修受入先 日本オートモービルハイテクニカルスクール
- 連絡先 千葉県庁社会部文化国際課 Tel043-223-0055 (担当: 渡部)
- 備考 地方自治体ベースC/P研修

- 氏名 Leaana Sosaiete Filipo
- 所属先 内務省
- 研修期間 98. 06. 15~98. 08. 09
- 研修受入先 中國国際センター
- 連絡先 0824-21-6310
- 備考 JICA研修集団コース(地方自治体行政実務)

- 氏名 Lolesio Lavea
- 所属先 運輸省
- 研修期間 98. 06. 29~98. 12. 05
- 研修受入先 兵庫インターナショナルセンター
- 連絡先 0787-34-5175
- 備考 JICA研修集団コース(航海技術)

第3回総会模様

平成2年2次隊
安田 和幸 (サタムエツジニア)

第3回目を迎えたサモアOV会総会は、5月24日に約20名の会員の方々が出席の中、NTT中野クラブで行われました。何名かの出席予定者の到着が遅れたこともあり、予定の13時を15分過ぎ（サモアンタイム？）で始まり、出席人数にはやや寂しさがあったものの、総会そのものは活発かつ真剣な話し合いが行われました。会は、会長の山崎氏の挨拶で始まり、96年度、97年度の会計報告の他、会の名称を「サモアOB会」に改正する案や役員の改選案等が討議され、最後に出席者全員の記念撮影を行い、終了しました。（詳細は議事録を参照願います。）

その後会場を宴会場に移し、JICA職員でサモア事務所に勤務（93年12月～96年7月）され、当会にも名誉会員として入会された西本玲さんの“マヌワイア”という乾杯の音頭で宴会が始まりました。昭和62年度1次隊（漁具漁法）で、南極観測隊に参加しこの4月に昭和基地から帰国されたばかりの鷲山直樹さんかわざわざ持参してくださいった南極の氷と、昭和47年度2次隊（土木施工）でサモア隊員第1号の山川精一さんが差し入れてくださったウイスキーで賛沢な水割りやロックを頂きながら歓談に花をきかせ、恒例の自己紹介兼思い出話の披露となりました。古い隊次から新しい隊次へと順に話は進み、思い出話の中に派遣開始後30年以上にわたるサモアの移り変わりが感じられ、懐かしい思い出に浸ったり、また自分の帰国後の変化の大きさに驚いたりと様々でした。そして、平成6年度2次隊（音楽）の澤井慶太さん、同3次隊（無線通信機）の石橋一実さん、同（在庫管理）の種田洋三さん、同（数学教師）の清水幹雄さん、そして前述のJICA西本さんによるサモアン“シバ”が披露され、盛り上がりはピークに達し拍手喝采をあびました。昭和53年度シニア（自動車整備）山岡和一さんの奥様????さんも飛び入り参加で大喜びでした。そして澤井さんのギターに合わせての“We are Samoa”的合唱では各々が記憶を辿りながら口ずさみ、過去2回の総会と少し違った感動を残して宴会は終了しました。

過去2回の総会は土曜日開催だったため、今回は日曜日の昼間に開催し、宴会を5時に終わるよう試みてみました。土曜日にお仕事等で参加できない方を考慮しての試みでしたが、翌日仕事のために2次会以降へと十分に盛り上がれない方もあったようで、次回はもう一度見直した方が良いのかもしれません。ともあれ、今回は昭和40年代から50年代前半の隊次の方々と最近帰国された方々の参加が多く、良い交流の場になつたのではないかと思います。今後も参加が少ない年代の隊次の方々を積極的にお誘いし、より幅広い交流の場にしたいものです。

近況報告

OB隊員の々から次のような近況報告及びメッセージを頂きましたのでご紹介します。メッセージを特に記入されなかった方はお名前のみ掲載しました（敬称略）。

- 山川 精一（昭47年2次隊 土木施工）
建設コンサルタントで海外の業務をやっております。OV会にはなかなか出られませんが、お互に助け合い何かをやっていけるようにできればと思っています。
- 大瀧 明（昭47年3次隊 渔船エンジン）
海外生活からリタイヤして田舎でのんびりヨットを磨いている毎日です。近くにおいての際はぜひお寄り下さい。
- 内原 清行（昭49年2次隊 図学及び製図）

●佐藤 啓一（昭49年2次隊 土木一般）
帰国後21年が過ぎてしまいました。西サモアでの2年間の生活がつい昨日の様な気がします
が、息子がそろそろ協力隊に興味を示す年齢になり、時の経過を感じます。今後のOV会の発展
をご祈念しております。

●本橋 三千雄（昭49年2次隊 建築設計）

●岡田 裕二（昭50年1次隊 建築）

在パプア・ニューギニア日本大使館で総務、経済協力総括をやっています。休暇で2週間
程帰国した際、本連絡を頂きました。在外勤務が多いため、OB会に協力できず恐縮し
ています。

●中沖 義博（昭50年2次隊後 視聴覚機器）
サモアの近況をお知らせいただければ幸いです。

●萩原 俊夫（昭50年2次隊 船外機）
海外への駐在、出張生活より離れて10年近くなります。現在は、国内業務となっております。

再度、海外への希望有り。西サモアOV会の発展を祈っております。

●山崎 清（昭51年1次隊後 野菜栽培）

●岡本 真理子（昭51年2次隊後期 歯医師）
新年度になり住所も変わりました。相変わらず忙しくしております。1日が24時間じゃなくて

もっと長くて体力も2倍あればいいなと思っています。今日この頃です。

●平岩 千尋（昭52年1次隊 臨床検査技師）

●藤田 敏行（昭52年次隊前 果樹）

●飯田 敏夫（昭52年2次隊 建築設計）

最近八百屋の店頭で柳子の実を見つけたので早速買い求めてしばらく家に飾っておきました。
2週間ほどして色が変わったのを待って苦労して割ってみました。中のあのなつかしい味を家族にも味わってもらいましたが、無感動であり一人私だけがはしゃいでいたという結果でした。

●森 平之（昭53年4次隊 野菜）

仕事、家族などに日々追われて“サモアの青春”は遠くになりつつあります。日本で生き抜くことは本当に大変ですが、年老いてドウニモナラナクなる前に、もうヒトハナ咲かせたい。。。と思っております。

●山岡 和一（昭53年シニア 自動車整備）
前々回？出席したときと同じです。仕事の都合で西サモアを再び訪れる機会がないのが残念です。

●山岸 繁（昭54年1次隊 建築）

●清水 義之（昭55年度1次隊 電話交換機）

●土井 章（昭55年4次隊 土木施工）
JICA社会開発調査の廃棄物分野の仕事を民間コンサルタントとして行っています。

●米田 公生（昭56年1次隊 公衆衛生）
昨年まではタンザニア、今年はポンジュラスで廃棄物調査を行っています。

●菅 信博（昭56年2次隊 水産）
10年立ったらサモアへ家族連れて行きたい、との夢がなかなか実現しません。経済的にも時間
的にもゆとりがなくなり、せめて精神的なゆとりを回復できればと思っています。会報に出てい
る現地事情を見て、随分変わったようにも思います。自分の目で確かめてみたいね！

●原子 司（昭56年2次隊 船舶機関）
4月より住所変更になります。皆様によろしく。

●平川 修一郎（昭56年4次隊 自動車整備）

会費も払っていないのに調査に含めていただきありがとうございます。次回は払います。

- 池田 和美（昭57年1次隊 土木施工）
西サモアOV会になかなか参加出来なくて申し訳ありません。皆様も仕事の合間に色々大変で
しょうが頑張って下さい。是非、一度はOV会に参加したいと思っています。
- 深瀬 裕司（昭57年2次隊 在庫管理）
- 尾木 正（昭57年4次隊 歯科医）
- 池田 純（昭57年4次隊 建築）
御苦労様です。総会の時に限って日本にいないことが多く残念です。
- 兼政 博之（昭57年4次隊 理数科教師）
サモア家具工房を開いて5年になります。昨年、西サモアからサモアへ国名が変わりま
した。サモアが国名になり、これを使うことは恐れ多いことと思い、変更したいと思いま
すが次のいい名前がいまのところありません。当分、名なしでゆきます。
- 近藤 徹也（昭57年4次隊 電力通信）
2／4付での原稿依頃に応じたかったのですが、書けませんでした。申し訳ありません。
- 上村 康幸（昭58年1次隊 公衆衛生）
栃木OB会総会が5月23～24日になります。このため総会には出席できないかもしません。
OB会の運営は大変な労力と資金を必要とします。会費未納で申し訳ありません。経費節減の為、
JOCAホームページに常設サモアOB会のページができるなら、こちらから情報をとりにいきま
す。
- 平田 豊（昭58年度2次隊 建設機械）
- 野島 和宏（昭58年3次隊 土木設営）
現在、タイ・チェンマイに住んでおります。単身赴任中。タイ北部ランプーン工業団地の中に工
場があります。今回は2度目の赴任です。仕事の都合上、なかなか西サモアOV会には出席でき
ません。皆さんによろしく。
- 鎧内 良廣（昭58年4次隊 自動車板金）
平成10年3月より独立開業（不動産業）いたします。京都へ来たらぜひおこしやす~。
- 増田 みどり（昭59年1次隊 臨床検査技師）
OV会の活動を知るたびに皆様の熱意と努力にいつも感動を与えられます。ご協力でき
ることが少なく申し訳ありません。会の益々の御発展をお祈りいたします。
- 横村 典昭（昭59年3次隊 無線通信機）
- 青木 正治（昭59年3次隊 視聴覚機器）
12月にごま書房「アニメ声優ファイル青ニプロ編」の写真を撮りました。立ち読みで
もして下さい。景気が悪くて、フリーランスは大変です。仲々時間がとれません。景気
が悪い時こそ、と開き直って、レストランバーを開こうと、友人と事業展開を進めてい
ます。御苦労様です、がんばって下さい。
- 小笠原（旧姓水谷）智美（昭59年3次隊 歯科衛生士）
8才、6才、4才と3人の子供の育児中。少しづつ楽になってきましたが、まだまだ手
間のかかる連中です。JO CVの後、主人がUNIVとして赴任した、クック諸島ラロト
ンガで生まれた長男と次男のNZバッスポートにはマオリネームがのっています。4月に、
ラロトンガで知り合ったオーストラリア人の友人一家が来日予定。我が家と同じ家族構
成。長男同士のみラロトンガで遊んでいたのですが、3才頃のことなので（今は8才）
本人は覚えていません。5年ぶりの再会ですがとても楽しみにしています。
- 米山 幸男（昭60年1次隊 宅内電話工）

3月9日付で転勤となり、法人営業部に配属となります。Tel番号、Fax番号は、新しい部署のものです。法人営業部で公共担当(AM)にて、甲府市役所を担当し販売活動に頑張るつもりです。いい情報がありましたら連絡ください。

●島村 直登（昭60年1次隊 理数科教師）

先日、原稿を送ったので特にここに書くことはありません。何の役に立つか、よくわからません。

●吉田 利幸（昭60年1次隊 通信電力）

西サモアOV会へは今まで参加出来ませんでしたが、是非イベント等へ参加したいと思っていきます。6月に2人目が生まれる予定で、私生活でも忙しくなりそうです。OV会の役員の皆様ご苦労様です。

●兵藤 吉之（昭60年2次隊 野菜）

新鮮で安全な米や野菜が食べたいのなら、自分で作るか、「兵藤農場」まで。酸性雨が野菜に与える影響を、多面的に検証中です。

●石田 健太郎（昭61年1次隊 食用作物）

NZという英語圏ですが、相変わらず理数科教師をやっております。日本でのNZの高校のI'm a g eと大違い、ここと較べるとサモアの生徒は素直だったなと毎日頭が大爆発しております。

●逆瀬川 修（昭61年1次隊 建築構造計算）

平成10年3月19日に待望の第一子（長男）が誕生しました。今はまだ妻の実家におりますが、帰ってきたら子育てにがんばろうと思っています。

●松下 正夫（昭61年1次隊 理数科教師）

現在、商品先物取引業界の新聞記者をしています。地道な活動をされているOV会関係者の方にはご苦労様です。今後もよろしくお願ひします。

●近藤 範彦（昭61年1次隊 滞接）

12年前は隊員の中で一番若かった私も結婚して子供もできました。赤穂市は、関西圏のはずれで田舎なため、外人さんも少なくSAMOAで培った英語を話す事もほとんどありません！でも海外通販では活躍しているかな？こちらにお立ち寄りの際はぜひ御一報を！

●高橋 和也（昭61年1次隊 理数科教師）

帰国して今年で10年になり、サモアは遠くになりにけりといつた感じです。皆さんにもご無沙汰しております、失礼しております。会社でもいつしか中堅となり何かと忙しい毎日です。

●伊東 辰夫（昭61年2次隊 在庫管理）

月日の経つのは早いもので、サモアより帰国して10年になります。みなさんお元気ですか。私も元気に生活しています。

●山上 清子（昭61年2次隊 臨床検査技師）

●今出 昌一（昭61年2次隊 歯科医師）

昨年英語だけの会議にはじめて出ました。（もちろん、発表などなく、ただ聞くだけ）イヤハヤ、チンパンカンパンでした。10年も前はサモア語混じりの英語で生活していたのに。やっぱり使わないと忘れます。それと生活の為の言葉とビジネスのための言葉のちがいも感じました。今、ラジオ英会話入門を聴いてブラッシュアップしています。

●徳山 薫（昭61年2次隊 理数科教師）

仕事のためになかなかゆっくり休めない日々です。又、サモアを台風が襲って被害が出たと手紙が来ましたが、どの程度でしょうか。皆さんは大丈夫だったのでしょうか。忙しい仕事の合間を縫っての役員会、催物の準備をして下さりありがとうございます。

●河野 益幸（昭61年2次隊 工作機械）

今、障害者施設でボランティアしています。又、先日に地元の米軍基地内のPARTYに参加しました。西サモアでもそうだった様にアメリカ人は、PARTYが好きなようです。

●竹田 誠（昭62年1次隊 電気機器）

毎日忙しい日々を送っています。サモアでのんびりとした生活が、なつかしいですね。今年は総会にも参加したいと思います（時間があれば）。

●岩佐 孝一（昭62年2次隊 無線通信機）

昨年の3月に東京から北海道へ転勤し、体が慣れないうち、短い夏が終わり、冬へ、今冬もどうやら先が見え、もう少し、もう少しと言い聞かせながら日々過ごしています。モットーは、単パン、Tシャツで仕事のできる所ですが、中々思うようにはいかないようです。

●芹生 健一（昭62年2次隊 無線通信機）

毎日仕事に追われて忙しいです。私事では特に変化ありません。皆さんメールお待ちしております。

●當宮 成人（昭62年2次隊 船舶機関）

最近仕事のストレス、疲れから早漏に悩まされています。この種の会報は品があるべきと考えます。上記は掲載しないことをお勧め致します。

●鷲山 直樹（昭62年2次隊 水産）

H9.11/14～H10.3/28:しらせ乗船中
代筆：斎藤真美帰国後に変更ありましたご連絡致します。

（編集部註：鷲山氏は、先日無事に帰国されました。）

●古賀 信雄（昭62年3次隊 溶接）

皆様、御無沙汰しております。昨年の2月より、米国にて駐在しております。最近は周囲の状況や、仕事にも慣れ楽しくやっています。職場で、日本人スタッフは私一人なので、語学の向上にも良い環境です。こちらの生活は快適です。

●山本 文雄（昭62年3次隊 電装）

寒さがこたえるので、週末になると温泉や健康ランドをめざして家族で出歩いています。暖かくなって、OV会のB.B.Q.に参加するのを楽しみにしています。

●宅島 弘幸（昭62年3次隊 自動車板金）

●川本 雅之（昭62年3次隊 土木施工）

●中西 泰敬（昭63年1次隊 道路）

建設業界の不況に伴い毎日休みなしで働いていますが、OV会の会合等にはできるだけ参加したいと思っています。家庭の方は子供上がり3歳、下が1歳の2人です。もう一人位いは将来的に欲しいのですが…

●平野 裕之（昭63年2次隊 土木設計）

食品、工業原料、同製品、部品、衣料雑貨の輸入を小さくやっています。今年やっと結婚の予定です。

●小川 猛雄（昭63年2次隊 溶接）

西サモアへ早く行きたいと思っています。

●當宮（旧姓岩田）雅子（昭63年3次隊 臨床検査技師）

この項目に対する夫の回答を読み、ただただ恥ずかしいばかりです。結婚して8年目。このヒトと結婚してよかったですか否か、つくづく思い惱む今日この頃です。OV会のお仕事いつもありがとうございます。

●森井 健太郎（昭63年度3次隊 視聴覚教育）

昨年12月に結婚しました！！現在、Love Love 生活です！！職場が横浜クイーンズスクエアー

の11Fに移りました。役員の皆様、いつも有難うございます。

- 平川 正広(昭63年3次隊 SE)
大変ご無沙汰しております。私は相変わらず忙しくバタバタした生活を送っています。出張が多いこともあります。私は相変わらず忙しくバタバタした生活を送っています。皆さんはどうしていますか?不義理をして連絡も取っておりませんが、気持ちは皆さんに会いたいモードでいっぱいです。できる限り、いろんな事に参加したいと思っておりますので、懇りずに誘ってください(住所が変わりました)。

- 杉村(旧姓足立) 知子(平1年2次隊 獣医師)

今度、高知県の人め酒サモアへ獣医師で派遣されるそうです(09-3次隊)。まだ続いていたのかとビックリ。3/31は高知県の協力隊OB会主催行会があり、いつも御無沙汰のOB会ですが今回ばかりきて出席します。“Manuia le galue”と言ってあげよう!!

- 森 裕二(平1年1次隊 自動車整備)

- 市川 勝彦(平1年2次隊 電気機器)

- 多田 智治(平1年2次隊 工作機械)

今、一番熱を入れているのは少林寺拳法です。
サモア人配偶者(妻)を持っている者同士のネットワークを抜けられればと思っていま

- 荒井 真(平1年2次隊 建築構造計算)

極端な田舎での設計の仕事は協力隊時代以上に厳しく、専門職のみでの生活は容易ではありません。サモア同様、毎日が協力隊活動そのままであります。地方に居るだけでなく、厳しい生活をよぎなくさせられているのでOV会活動にはまったく協力できず申し訳なく思っています。活動を支援されている方々には頭が下がります。頑張ってください

- 坂口 明(平1年2次隊 建築構造計算)

- 石垣 智(平2年3次隊 土木施工)

今年2月に現住所へ引っ越してきました。勤務先も地元の会社へ転職しましたし、長女も保育園へ4月から通いますので、新しい事ばかりの生活を送っています。

- 星野 嘉久(平2年3次隊 電話線路)

- 小熊(旧姓佐藤) 則子(平2年3次隊 音楽)

- 粒良(旧姓大竹) 雅代(平3年1次隊 健護)

- 荒井(旧姓吉永) 志保子(平3年1次隊 獣医師)

4才と2才の息子たちの育児に明け暮れる毎日です。自分の時間ほしいなあ。
●木村 晴通(平3年1次隊 技術科教師)
東京に来て2年目、ようやく生活に慣れて来ました。今まで奈良県で勤務していましたのでOV会には参加できませんでしたが、次回から参加させていただこうと思っています。

- 長綱 弘美(平3年3次隊 通信電力)

昨年3月に帯広へ単身赴任して早1年が過ぎました。メチャ忙しい仕事とマイナス20℃を超える寒さに南国の天国“サモア”が恋しいこのごろです。早く春よ来い(冬は嫌いだ!)。

- 及川 茂(平4年1次隊 無線通信機)

- 松本 宏子(平4年2次隊 臨床検査技師)

UNIVとしてモンゴルで活動中、1999年9月(予定)までの任期です。

- 横山 恵子(平4年2次隊 家政)

現在は大学院の修士課程に通っています。サモアの食文化について調べたい事ができたので行ってくる計画でいます。家政OGの方、サモアで食いしん坊だった方、仲良くしましょう。これ以上の留年は避けたいです。

●青木 和彦（平4年3次隊 電話線路）

現在、本人はコロンボ、スリランカにH10.1/6～6/30 逗出張中です。（代筆父）

●片桐 敏行（平4年3次隊 工作機械）

現在求職中にて東京の会社からの結果待ちである。4月中には結果が出ると思う。入社が決まれば多忙になり、海外勤務もあると思います。その際は住所も変わります。就職できたらの話ですが。

●諸岡 智美（平4年3次隊 助産婦）

●兎玉 進一（平4年3次隊 土木施工）

●吉田 知惠（平4年3次隊 音楽）

最近、再び海外に出るための手段として日本語教師養成コースに通いはじめました。規定の420時間を終了してもなかなか海外就職の道は狭き門…。実際に希望どおりの展開になるかはわかりませんが…。それにしても、海外脱出志向の日本人が何と多いこと！と学校に通いはじめて改めて改めてびっくりしました。

●諸岡 政洋（平5年1次隊 電気機器）

地元に戻り、また更に田舎の病院に勤める現在です。地域や海外の情勢にも疎くなっていく自分を感じます。なつかしい西サモアについて語り合いたいです。お手紙下されば、個人的に携帯telのNoをお教えします。（ナタネ）

●猪 克実（平5年2次隊 建築設計）

2年間のブランクを取り戻す為、必至で頑張っています。日本はボランティアを自分の都合のいいように勘違いして解釈されている。ボランティアを行った為、タダで何でもやってもらえると思われて困っています。

●内館 弥生（平5年2次隊 歯医師）

帰国して2年も過ぎましたが、私自身はあまり変わっていないようです。猫と遊んで、旅行して…かな？

●久芳 尚子（平5年2次隊 痢謹）

年齢制限ギリギリのワーキングホリデーでNZにやってきて9ヶ月。さすがにふつうのワーキングはちがって、まるでJOCVの活動のような障害者関係の仕事をしてきました。この経験と少しだけ上達（）した語学をたずさえ2回目のOB支援プロジェクトで西サモアへ行ってまいります。その後は未定…。（きっとフカテン… 親は泣く… いとあはれ）

●樹本 誠司（平5年3次隊 自動車整備）

●安藤 和行（平6年1次隊 土質検査）

日本社会はきびしいですね！

●森山（旧姓大澤） もとい（平6年2次隊 SE）

●澤井 麗太（平6年度2次隊 音楽）

隊次のかたよらない親睦会をやりたい。

●成田 能暢（平6年2次隊 体育）

●熊崎 大祐（平7年1次隊 自動車整備）

●豊田 雅子（平7年1次隊 音楽）

一月下旬に帰国し、あっという間にお金入手に入る手段もみつかり、あまりの早さに気がくる

いそうです。そこで、CAREのスタディツアーや、タイへ行つきました。やはり、村が良い。自然に逆らわず生きる姿に生命力を感じる。帰国後初でアンケートに答えられず、すみません。

●吉川 浩史（駐在員）

●小野 薩一（駐在員）
ご苦労様です、頑張って下さい。

（社）青年海外協力協会へ出向し、より、OB、OG諸兄姉の活動に敬意を表しています。協力隊で得た経験を帰国後どう自分の人生の中で、非常に重要なことだと思います。単なる同好の集まりでなく、目標や理念を持ったOV会への発展を心から願っています。主張する面、親睦の面、そして諸々の面を持ったOV会づくりこそ大切かと思います。

●高橋 勝成（事務所長）

現在協力隊診療室に居ます。診療室は新宿マイinzタワー9階東側です。来園のおりには立ち寄ってください。

●谷中 改（事務所長）

平成8年10月に関西支部が大阪国際センターに統合され、支部が行つてきた協力隊の募集説明会など、協力隊事業も同センターで実施することとなり、いろいろ仕事も関係があります。中、高校からOB/OGの講義依頼があったり、国際交流の協力、支援も多くなってきています。

●幸 伊作（調整員）

無職。お忙しい仕事の合間をOV会のために献げられ、正にボランティアの鏡です。ご苦労様です。

アンケート調査結果について

サモアOB会発足以来、早くも5周年を迎えるとしています。そこで、更なる活動の充実を図るため、会員の意識、要望及び活動状況等を把握し、今後のOB会活動に役立てたく先般アンケート調査を行いました。その結果を下記のようにまとめましたので報告します。

1. 活動状況について

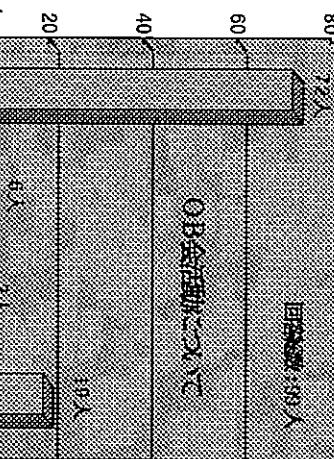
多くの会員は、現状の活動に満足という意識をもっていますが、特に地方の会員からいくつか提言がありましたので紹介します。

- ・活動が首脳中心であるため、参加する機会がない。
- ・集まつて飲むだけの親睦会がOB会不要。
- ・東京だけでなく、大阪、広島等で開催してほしい。
- ・もっと親睦会等を開催して会員相互の親睦を深めたい。
- ・インターネットを使った情報の共有化を図ってほしい。etc

<当会コメント>

まず、当OB会は平成6年3月に「会員相互の親睦をばかり、サモアOB・OGとしての経験を生かした活動を行う」という目的で設立したものです。現在の活動としては、年2回の会報及び年1回の住戸録の発行、適宜親睦会並びに2年に1度のOB総会の開催です。

このため、役員は各自の仕事及び私的な用事等を調整し、毎月第3土曜日に広尾の割烹町にて集まり定例会を開催し当会運営に関する協議を行っております。役員の中には県外から何時間もかけて来るものや都内から来るものと様々ですが、交



通費や飲み物等はすべて自腹にて賄っております。まず、我々がご理解いただきたいことは、当OB会の運営はすべてボランティアで行っているということです。

さて、前述の説明を踏まえて、皆様方の提言（苦言）についての当OB会のコメントを述べさせて頂きます。
当OB会としても地方会員に対するサポートを如何に行っていくか、設立当初からの課題であり、今現在もその取り扱いについてお運営委員会の中で協議を続けておりますが結論が出しておりません。現状、役員の多くが皆都圏に在住していること、また、全体の隊員OBに占める首都圏在住者の割合が高いことから必然的にその活動の中心が東京になってしまっていることはまぎれもない事実であります。我々の活動を行うにあたって一番に考えるのは一体何人のOBの方々が活動に参加して頂けるかということです。仮に地方で親睦会より、OB総会を開催した場合、何人のOBの方々に参加して頂けるかと言うことです、地方においてはその絶大数が非常に少ないことから必然的にその活動に参加する手配、会員への連絡等々の様々な準備作業を実際などのように行っていくのか、前述しましたとおり役員のすべてが首都圏に在住しているため、地方において当OB会がオペレーションをすること非常に難しい事実です。また、さらに会場や飲食物の在住の方々がこれら作業の実施の可能性も無ければ言ひ切らなければなりません。しかしながら、この月も前から準備作業をしなければならないということ、またノウハウ等がないことで実現問題として非常に難しいと思われます。このように現状では東京にて開催するしか手がねのではなくかと結論づかせざるを得ません。しかしながら、このようなことをコメントさせて頂かねばと思ひます。この点だけは理解のないようにお願いします。また、どのようにすれば地元の方々も取り込み満足感をいくつある活動をして行くかをということを皆様方と一緒に今後も考えていただきたいと思います。逆に皆様方から具体的なご意見等（ロックに分け責任者を置く等）を頂かねばと思ひます。
なお、当OB会としては、地方とのギャップを埋めるとともに、よりえずバーチャルによる迅速な情報提供、情報の共有化等（ホームページの開設等）を図ることを計画しております。また、さらに今年は地方展開の1つの試みとして、この夏、駒ヶ根で実施される協力隊期間に参加することを予定しております。

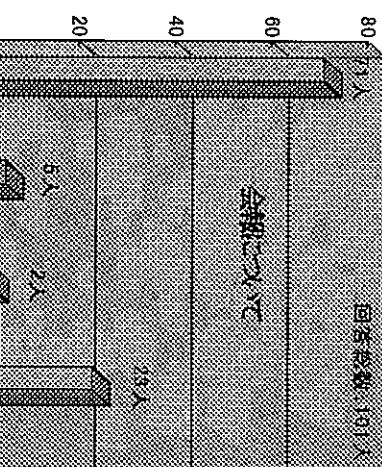
2. 会報について

多くの会員は、現状の記事に満足という意識をもっています、いくつか提言がありましたので紹介します。

- ・会報が届かない、一度しか見たことがない。
- ・発行回数を多くしてほしい。
- ・サモアの現状記事をもっと掲載してほしい。etc

<当会コメント>

当OB会は皆様方の会費により運営されており、原則として、「会費納入会員」を対象に会報及び住所録並びにその他各種連絡等を行っております。これは、発行及び郵送には費用がかかるためです。また、2年に1度開催されるOB総会の年には、OB会の活動状況等を報告すること及び新規会員の歓迎の理由により、当OB会が連絡先を把握している全隊員OBへ会報及び住所録を送付しております。会報が開催されない年には新規会員の歓迎が出来なくなるため、適宜、至近の帰国隊員に入手し、個別に郵送を行っております。会報及び住所録送行のためには、その前陣連絡等を含めると3~4ヶ月が必要になります。当OB会としましてもなるべく会報等の発行回数を多くしたいという気持ちはあります、我々役員も各自仕事を抱えているため、現在の年2回の会報発行のペースを守るのがやっとというところが現状です。しかしながら、現在の会報の規模はA4サイズでも10枚以上あるため、掲載内容を選択し枚数を減らすことによって、現在の年2回の発行回数を増やすことは可能かと思います。これにつきましては、皆様方のご意見等を伺い当OB会にて対応していきたいと考えます。また、サモアの最新情報については、多くの方々からの要望があることは当会も理解しておりますので、今後ともサモアより情報を入手し会報に掲載して行くつもりです。



3. 住所録について

多くの会員は、住所録の掲載及び内容に満足という意識をもっていますが、会員の中からいくつか提言がありましたので紹介します。

- ・住所が正しく記載されていない。
- ・第三者からOB会への間合わせがあつた場合のみ、本人の承諾上住所を開示すべきである。
- ・住所録の第三者を通じて何に使われるか不安である。
- ・住所録を見たことがない。
- ・海外在住者等は、OB会との連絡に時間を要するので時間に余裕をもってほしい。
- ・JOCV発行の帰国隊員住所録は無料であることから、OB会発行の住所録も無料であるべきである。

<当会コメント>

住所録における誤記載は、皆様方の住所はOB会にてデータベースで管理しておりますがその入力の際に誤入力等により生じたもので、今後十分注意を払い、住所録発行前には必ず確認作業を入れることにより記載内容の精度を向上させたいと考えます。また、住所録はOBの方々の間の親睦を深めることを目的として作成されていますので、もやみやたらと外郭には公開しておりません。それでも不安であるという方には予め掲載しない旨ご連絡を頂ければ掲載は行いません。OB会一括管理というご意見もありますが住所録を隊員OBに公開することによりOB間の親睦を深めることに利用して、ただければよいのではないかと思います。OB会一括管理は、現実問題として対応が困難であります。JOCV発行の帰国隊員名簿は、原則的に有料です。ただし、帰国した時については、無料で配布されます。また、電子メールでの情報交換を希望している会員が多いことから、今回新たに試みとして電子メールのIDを掲載していただきたいと考えています。

最後になりましたが、今回のアンケート調査を通じ、会員皆様方のお考え等を把握し、今後の当OB会活動に反映していきたいと考えておりますので、今後ともご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

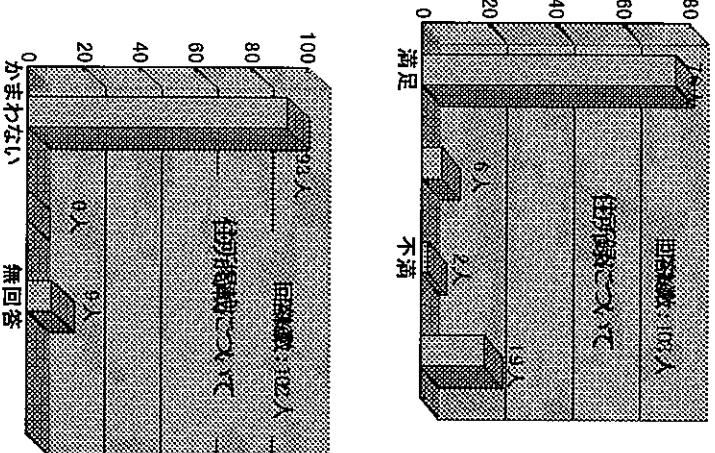
運営委員一同

OB会活動内容

私ども役員会は、過去2年間において、下記のとおり活動を行っておりますことをご報告いたします。

<96年度活動>

- ・96年 6月 8日(土) 第2回OV会総会（於：中野クラブ）
- ・96年 6月15日(土) 第2回OV会反省会
- ・96年 8月 3日(土) 第3号会報及び住所録発送作業（200部）
- ・96年 8月31日(土) 国際協力フェスティバル準備作業
- ・96年 9月28日(土) 国際協力フェスティバル準備作業
- ・96年10月 5日(土) 同上
- ・96年10月 6日(日) 国際協力フェスティバル反省会
- ・96年11月 6日(土) 和光学園文化祭観察
- ・96年11月16日(土) 親睦会開催準備作業
- ・97年 1月18日(土) 第4号会報発行準備作業



- 97年 2月15日(土) 第4号会報発行準備作業
- 97年 3月 5日(土) 第4号会報発行準備作業

<97年度活動>

- 97年 4月22日(火) 在西サモア日本国名誉総領事就任祝賀会出席
- 97年 5月17日(土) 第4号会報発送作業
- 97年 7月27日(土) 國際協力フェスティバル準備作業
- 97年 9月 6日(土) 國際協力フェスティバル準備作業
- 97年 9月27日(土) 國際協力フェスティバル準備作業
- 97年10月 4日(土) 國際協力フェスティバル(於：日比谷公園)
同上
5日(日)
- 97年10月25日(土) 國際協力フェスティバル反省会及び親睦会開催準備作業
- 97年12月 6日(土) 親睦会
- 98年 1月17日(土) 第3回総会及び第5号会報及び住所録発行準備作業
- 98年 2月21日(土) 第5号会報向けアンケート用紙発送作業(256通)
- 98年 3月14日(土) アンケート集計作業

<98年度活動>

- 98年 5月24日(日) 第3回OV会総会

当OVは、原則、毎月第3土曜日に運営委員会を開催し活動を行っております。
96年度には、①第2回OV総会、②第3号会報及び住所録発行、③国際協力フェスティバル参加、

④和光学園文化祭観察、⑤親睦会

97年度には、①在西サモア日本国名誉総領事就任祝賀会出席、②第4号会報及び住所録発行、

③国際協力フェスティバル参加、④親睦会、⑤第5号会報発行向けアンケート調査

また、今年度についても昨年同様な活動を考えております。

第3回青年海外協力隊サモアOB会出席者名簿

以下の23名の方が出席されました。

1. 山川 精一 (昭和47年2次 土木施工) - 親睦会のみ
2. 近藤 敏夫 (昭和48年1後次 建築設計)
3. 中沖 義博 (昭和50年2後次 視聴覚機器)
4. 山岡 和一 (昭和53年シニア 自動車整備)
5. 小針 寿博 (昭和59年2次隊 在庫管理)
6. 伊東 辰夫 (昭和61年2次隊 在庫管理)
7. 徳山 薫 (昭和61年2次隊 理数科教師)
8. 米田 公生 (昭和56年1次隊 公衆衛生)
9. 山崎 直樹 (昭和62年1次隊 宅内電話工)
10. 鷲山 博 (昭和62年1次隊 漁具漁法)
11. 安達 博 (昭和62年2次隊 通信電力)
12. 新井 克芳 (昭和63年1次隊 電話交換機)
13. 中西 泰敬 (昭和63年1次隊 道路)

14. 大塚 一雄 (昭和 63 年 3 次隊 システムエンジニア)
 15. 岩本 融 (平成元年 1 次隊 視聴覚教育)
 16. 藤田 和彦 (平成元年 1 次隊 無線通信機)
 17. 市川 勝彦 (平成元年 2 次隊 電気機器)
 18. 安田 和幸 (平成 2 年 2 次隊 システムエンジニア)
 19. 澤井 麗太 (平成 6 年 2 次隊 音楽)
 20. 石橋 一実 (平成 6 年 3 次隊 無線通信機)
 21. 種田洋三 (平成 6 年 3 次隊 在庫管理)
 22. 清水幹雄 (平成 6 年 3 次隊 教学教師)
 23. 西本 玲 (JICA 事務職員)

青年海外協力隊西サモア OV 会・第 3 回総会議事録

1. 日時 平成 10 年 5 月 24 日 (日) 午後 1 時～午後 3 時
2. 場所 中野クラブ
3. 出席者 別紙 1 出席者リスト 参照
4. 総会議事 (議長 安達博 S62-2・副議長藤田和彦 H1-1・書記岩本融 H1-1)
 - (1) 活動報告 (山崎義行 S62-1)
会報「マヌイア」参照 → 出席者多数により承認。
 - (2) 会計報告 (安田和幸 H2-2)
別紙 2 会計報告参照
 - (3) 会計監査報告 (岩本融 H1-1)
報告書に相違がないことを報告 → 出席者多数により承認。
 - (4) 議題の提出
 - (イ) 役員改選 (山崎義行 S62-1)
現役員の任期満了に伴い、別紙 3 の新役員 (案) を提出 → 出席者多数により承認。
 - (ロ) OV 会名称の変更 (山崎義行 S62-1) 別紙 4
現在の名称「西サモア OV 会」について、①サモア国名変更に伴う「西」の削除及び②一般的に聞き慣れない「OV 会」を「OB 会」に変更すること、すなわち「サモア OB 会」とすることを提案。
→ 「西」を削除することについては、出席者多数により承認。
 - 以前の名称「西サモア OB・OG 会」を「OV 会」に改名したことについて、時代の状況を考えて共感を覚えた。もう一度検討しては。
 - 今後の会の展開を考えると「OV 会」のままの方が良いのでは。
 - 役員会としては、「OV 会」という名称が一般に聞き慣れていないため、イベント等に参加する際に、依頼しておいた看板が「OB 会」になる等、好ましくないことが多くあったので、この機会に事務・労力を省力化する意味で承認願いたい。
 - 議論の結果、本議題について、出席者多数により承認。
 - (ハ) 香典支給 (山崎義行 S62-1)
今年 3 月に当会役員を務めていた「糸川玲 OB (H1-1)」が亡くなられた。OB 会としても、同 OB の労力に報いるため、また、家族への哀悼を表すためにも、香典を出したかったが、規則にないためこれまで出せずにいる。については、97 年度初に廻及して支給できるよう香典支給の規則を設けたい。

→会則にいちいち規定しなくとも、役員の合議で決定すれば良いのでは。
→役員側としては、ある一定の隊次で会の役員が構成されていることや、今回総会の出席者もあまり多くないため、役員合議により決定する、とすることには会員全員の理解が得られるかどうか不安がある。

→会の目的及び構成員からすれば、会の趣旨に賛同する者が会員であるから、会員総会で選任された役員の合議で決定しても良いと思う。
→議論の結果、支給対象を会員本人限るか否か、また、会員でも会費滞納者の扱いをどうするか、あるいは、役員会が知り得ない会員の過去への対応方法等を役員会で総協議することとなり、糸川OBへの香典については、今総会出席者の総意により承認される。

(5) 役員会への質疑

質疑1) 昨年の国際協力フェスティバルでの売上金の一部を「チュエルノブイリ被災者」に寄付するという話を聞いたが。

応答1) チュエルノブイリ支援団体も数多くあり、寄付先及び金額を検討している。

質疑2) OB会会費の使途として、サモア研修生の親睦会への参加費用助成金に当てるのはどうか。

応答2) 地方研修を受けている人もいて、全ての研修生を対象にすることは難しいが、これまでに機会を捉えて研修生にイベント等に参加してもらい、一部経費を会費から補填している。

質疑3) 地方在住者は、OB会活動への参加は会報への寄稿等通信によるものに限定されるので、OB会としてホームページを開設してはどうか。会報も郵送だけなくインターネットを利用すれば経費節減となる。

応答3) これまでにも役員の間で個々には話をしていたこともあり、前向きに検討したい。

質疑4) サモア研修生の情報を知らせて欲しい。

応答4) 会報発行時にJICAに照会して、会員にはお知らせするようにしたい。
会報の発行は年2回であるため、それ以外のタイミングには問い合わせに対し調査回答する等の個別対応とさせていただきたい。

質疑5) 会費の納入者が、96年度は76名であったのに、97年度では54名と減少している。会員への会費納入依頼や新帰国OB・OBへの勧誘は行われているのか。

応答5) 勧誘については、新帰国OB・OBへは、会報発行時に加入依頼を送付しており、

会費未納者についても、2年に1回の総会直後の会報発行時に会報を含め会費納付依頼書を送っている。役員の構成がある隊次に固まっていることも、新帰国OB・OGや会費納入者が増えないことの一因であると考えられる。役員構成が各隊次に散らばればまた違ったものになると思われるが。

(6) 役員会への提言

提言1) 本日議題になった会の名称変更については、会報等を通じて経緯を説明しておくべき。

提言2) 古い隊次同士でも付き合いには濃淡があり、役員構成の隊次の偏りだけではない部分がある。会ができて継続しているだけでもありがたい。あせらず徐々に活動していくことが肝要。

式次第

1. 開会
2. 西サモア OV 会会長挨拶（山崎 S62—1）
3. 議長・副議長・書記の選出
4. 活動報告（山崎 S62—1）
5. 会計報告（安田 H2—2）
6. 会計監査報告（岩本 H1—1）
7. 議題の提出
 - (1) 役員改選について（山崎 S62—1）
 - (2) 名称変更について（山崎 S62—1）
 - (3) 香典の支給について（山崎 S62—1）
8. 質疑応答
9. 議長・副議長・書記の解任
10. 閉会

会則

名称 1. 本会は、「青年海外協力隊サモア OB 会」と称する。（以下「本会」と称す
る。）

目的 2. 本会の目的は、次のとおりとする。

「会員相互の親睦をはかり、サモア OB・OG としての経験を生かした活動を行ふ。」

会員 3. 本会は会員と賛助会員で構成する。

・会員は、青年海外協力隊サモア OB・OG の内、会の趣旨に賛同する者とする。

・贊助会員とは、会員以外でこの会の趣旨に賛同する者とする。

役員及び
その任務 4. 本会を円滑に運営するために運営委員会を置く。運営委員会は、本会の役員をもって構成する。(但し、会計監査員を除く。)

・会長	1名
・副会長	2名
・会計	1名
・運営委員	4名
・会計監査員	2名

5. 役員の任務は次のとおりとする。

会長は本会を代表し、運営委員会を総括する。
副会長は会長を補佐し、会長が任務遂行できない場合はその任務を代行する。

会計は本会の予算の収入・支出を管理する。
会計監査員は会計報告を監査する。

運営委員会は会員名簿を作成し、改正版を発行する。

役員の
選出・任期 6. 役員は、総会において出席者の過半数の賛成をもって選出される。任期は原則として2年とし、欠員が生じた場合は次の総会までの臨時役員を会長が指名する。

総会 7. 本会は原則として2年毎に総会を開き、会長が必要と認めた時、臨時総会を招集することができる。総会の議長は、会長が指名し、会員の過半数の承認をもって任に就く。

会計 8. 会計は、年に一度会員に対し会計報告を行うものとする。尚、会計年度は、4月1日より3月31日までとする。

会費 9. 会員は、本会の維持資金として、年会費2,000円を收める。

会則の改正 10. 会則の改正は、総会出席会員・贊助会員の過半数の賛成により成立する。

付則 11. 会員は、住所、氏名、連絡先、職業、等に変更があった場合には、その都度役員に通知しなければならない。

12. 上記「目的」でいう「活動」とは、名簿の作成、会報の発行、サモア研修生との交流等を想定する。

13. 会員は原則として、3月末日までに翌年度分の会費を収める。
14. 役員が死亡した場合、本会より香典を5,000円支給する。

当OB会の名称変更について

当OB会の名称は、設立当初「青年海外協力隊西サモアOB・OG会」であり、平成8年6月に行われた第2回OB総会にて、OB・OGの名称をOVとして称することが一般化したことから時流に合わせるとの理由により、「青年海外協力隊西サモアOB会」へと変更しました。これにより、今回のOB総会が開催されるまでの約2年間を右名称にて活動を行ってきました。しかしながら、今般、運営委員会での協議の結果、以下の3つの理由により、会の名称を変更した方が今後の当OB会の活動が円滑に行えるとの判断から今回の変更に至りました。

<今回の変更理由>

- ①西サモアの国名がサモアへ変更されたこと。
- ②OV会という名前が現実的には一般に定着していないこと。
- ③上記②に基づき、対外的な説明や事務処理等が煩雑になるため。

<名称の推移>

平成 6年1月～	平成 8年6月	「青年海外協力隊西サモアOB会
平成 8年6月～	平成10年5月	「青年海外協力隊サモアOB会」
平成10年5月～		

編集後記

●新井 克芳（昭和63年1次隊 電話交換機）

西サモアOV会発足後、3回目の総会を迎えたが、役員は発足当時とほとんど同じ・・・そろそろ、会の運営方法を見直す時期が来ているように思います。会員の皆様にできるだけ多く参加していただける方法を考え、OB会を身近なものにしていきたいと思います。OB会の歴史は高くありません。同じ国で生活した仲間として、一緒に考えていきませんか。

●大塚 一雄（昭和63年3次隊 システムエンジニア）

ウイークナーは仕事に追われ、ウイークエンドはかみさん孝行とOB会活動に追われ、ほとんど束縛の無かったサモアの生活が非常に懐かしく思い出されます。この束縛から抜け出すために再度、協力隊にでも参加しようかなと馬鹿な考えをしている今日この頃です。なお、本会報の発行が遅くなりましたことお詫び申し上げます。

●岩本 融（平成元年1次隊 視聴覚教育）

将来の展望も無いまま、のん気なその日暮しの毎日ですが、OB会活動の中心を若い世代へ移譲することが唯一の目標です。

●藤田 和彦（平成元年1次隊 無線通信機）

早いもので第3回サモア総会があります。運営委員も相変わらず変わりません。新しい方でよろしかったら参加してみませんか。もちろん新古問わずOB・OGを歓迎します。

●安田 和幸（平成2年2次隊 システムエンジニア）

今年のはじめからJCL（対人地雷廃絶日本キャンペーン）の活動に参加しています。昨年のオタワ条約調印後の国会における早期批准に向けての政府への働きかけが今年

の国内目標。日本でも地雷が製造されている事実を知らない方がまだ多くいます。対外的な目標は、カンボジアを初めとした被害の多い国・地域への地雷除去支援、被害者支援。4月にはカンボジアを視察してきました。その他、署名集めやシンポジウムの開催など、イベントは盛りだくさんです。ICBLのノーベル平和賞受賞や長野オリンピックのクリス・ムーン（地雷除去作業中の事故で片手・片足を失う）さんの聖火ランナーなどでブームになった感のある地雷問題ですが、単なるブームで終わらせないために活動していきます。個人的には、昨年4月から会社を休職して学生生活中。12月には、父親になる予定。家庭と対外活動の両立が難しいところです。